

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東 222番地 6		
自己評価作成日	平成 23年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

住宅地に立地しながらも、これまでの生活を活かせるように敷地内に花壇や畑を作っており、花を眺めたり、種まきから収穫が楽しめるように工夫している。また梅 栗 柿 無花果の木があり、3ホーム合同で収穫したりして交流している。  
 ・利用者は散歩やドライブを好み、積極的に外出を取り入れている。景色を眺めては、利用者 職員共に会話が弾みます。  
 法人内で行う合同の運動会・カラオケ会・なべっこ会は、家族・地域の方々・ボランティアの参加も増え、楽しんでいます。  
 避難訓練は消防・地域の方々の協力を得て、年2回実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

企業理念の他に、事業所独自のキャッチフレーズ「楽しく 笑顔で、生き生きと」を掲げ、その実現に向けて取り組んでいる。職員は、歌や体操等のレクリエーション時にも明るく接しており、気配り、目配りに配慮した質の高いサービスを提供している。昨年度の目標達成計画に掲げた2か月に一回の運営推進会議の開催については、確実に達成出来ている。又、会議の内容の評価、要望、助言等を記録し、書面で出席者及び職員全員が確認し、サービス向上に?げている。

・サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3くらい 3. 利用者の 1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3くらいと 3. 家族の 1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 :18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目 :11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3くらいが 3. 職員の 1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3くらいが 3. 家族等の 1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ )+ (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は玄関と事務所内に掲示している。ホーム独自の目標も掲げ、職員一同日々取り組んでいる。	企業理念の他に、事業所独自のキャッチフレーズ「楽しく、笑顔で、生き生きと」を事業所内の数か所に掲げ、職員が都度、目に触れるようにしている。職員会議等で共有し、日々実践に役立てている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会・カラオケ大会・たんば会などホーム行事に参加されている。地域の行事にも職員と共に積極的に参加しており、日常的に交流が来ている。	地域行事である「弘法祭り」では、子供たちの踊りや神輿を楽しみ、住民と交流を深めている。ボランティアによる「風船アート」の計画やコンサートへの招待の予定もある。	災害対策に関わる住民の協力体制を構築しているが、更に、近隣住民に事業所へ来ていただく等、日常的な交流も期待される。
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	上記の行事の時などに地域の方、民生委員の方々に理解や支援について伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から2か月に1回開催している。利用者やサービス、評価への検討・取り組み状況・研修等について報告し、助言・要望を伺いサービスの向上に努めている。	会議は、包括支援センター、社協、家族代表、地域住民、事業所関係者で構成し、2ヶ月に1回開催している。そこでの意見を評価、要望、助言等にまとめ、サービスの向上に役立てている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接訪問したり、電話で情報交換したり、また指導を受けながらサービス提供に努めている。	行政との関係は良好である。特に、運営推進会議では、事業所の現状の理解を図り、様々な課題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が禁止となる行為を理解しており、身体拘束はしていない。必要となった時は「身体拘束行動マニュアル」に沿って取り組む方針である。	身体拘束を行わないケアを目指しており、全職員が、正しい理解のため勉強会を行っている。又、事業所内に、「上手な介護12カ条」や「気配り、目配り」等の手法を掲示し、日々、ケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やホーム内勉強会で学ぶ機会がある。利用者の自宅やホーム内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修参加はまだだが、その必要性と重要性については管理者、職員共に認識している。必要になった時は、過去の研修などを参考にしながら、活用できるよう支援に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際は、利用者や家族にその内容を説明し、不安や疑問点に対しても更に説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、管理者や職員にいつでも意見・要望・苦情を言える雰囲気作りに努めている。またホーム内数箇所に意見箱を設けている。意見等があった場合は職員会議で話し合い運営に反映させている。	事業所内に、「意見箱」を設けている。意見等があった場合は、職員間で共有し、業務に反映させている。特に、利用開始時の利用者及び家族等の要望の把握に努めている。苦情については、前向きに業務に活かすよう努めている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っている。職員の意見や提案は管理者会議で報告し、運営に反映させている。	毎月の職員会議やカンファレンスで活発な意見を出し合っている。代表者や管理者は、職員の意見や提案等を真摯に受け止め運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や実績、勤務状況を把握している。職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為、毎年計画を立て、事業所内外の研修に参加させている。資格取得についても積極的にすすめている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入しており、代表者、管理者、職員が研修や総会に参加し交流しており、ネットワーク作りはできている。協会主催の研修会等に参加して、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用に至るまでに本人の困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け、安心していただけるよう職員全員で努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者や家族に施設を見学して頂き、安心して利用できるよう支援している。困っている事、不安な事、要望等を良く聞き、安心していただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事したい事を見つけ大切に、職員と一緒にいる。また利用者の話に耳を傾け、暮らしを共にする者同士としての関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いしたり、いつでも訪問していただけるようにしている。訪問時には近況報告をし、本人・家族・職員が一緒にお茶を飲んで過ごし、本人を支えていくよう努めている。		
20	㊸	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	本人が普段使っていたもの、馴染みの物を持って来てもらい、安心できるよう支援している。また馴染みの店を利用したり、馴染みの人に会ったりしてこれまでの関係が途切れないように支援している。	本人が培ってきた家族や社会との関係が途切れないよう支援している。馴染みの理容・美容院、行きつけの店の利用を支援している。又、友人等の面会もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立しないよう職員が間に入り、会話したりレクリエーションに参加したりして、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、事業所の行事に招待したり、必要とされる時は相談に応じたり、それまでの関係を断ち切らないように努めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを把握し、ホームでの生活の中に本人の希望・意向が取り入れられるよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。特に、歌などのレクリエーションの機会を増やし、職員との信頼関係の構築に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に使い慣れた食器・衣類・身の回りの物等を持って来ていただき、それまでの生活環境・生きがいを維持できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や現状把握に努め、洗濯物の整理・食器の片付け・食事の下ごしらえ・花壇、畑の手入れ・収穫など一人ひとりの有する力が発揮できるよう支援している。		
26	10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見・要望を聞き、職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	現状に即したケア計画を作成し、月一回のカンファレンス、三か月毎のモニタリングで、本人、家族の意見を踏まえ、職員全員が意見を出し合い、チームで見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容等を個別に記録し、申し送り(1日3回)などで情報を共有して、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、小学校の運動会・学芸発表会・地域のお祭りなどに参加したりして、利用者が安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を大切にし、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局等と事業所との関係は良好で、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する医療機関や薬局の利用を支援しており、職員が付き添っている。結果等は家族に連絡し、共有している。又、訪問看護師を中心に医療連絡体制を築いている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を契約しており、看護婦に情報や気づきを相談しながら、日常の健康管理についてアドバイスをいただき支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ホームで出来る事を本人・家族等と話し合い説明し、理解していただいております。ホームでできることを支援している。	状態悪化時や看取りについての指針を定め、契約時に、本人や家族等に説明している。看取りの事例はないが、職員は、対応について確認し合う必要性を感じている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、救命講習を受講している。全員応急手当や初期対応できるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。今年度は自動火災報知装置も備わり、避難を最優先にできるようになった。避難訓練時は地域の方々にも参加協力していただいている。	消防署、地域住民の協力を得て、年2回の防災訓練を実施している。9月に自動火災報知機を設置し、操作手順も確認している。スプリンクラ も設置済みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の支援を心がけ、利用者の人格を尊重しながら支援している。	事務所に「自尊心を高めるコミュニケーション」介護の心得12か条」を掲示し、職員は、日々のケアを振り返り、さりげない対応に心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、本人の思いや希望を知り、それらを尊重し、マイペースで自己決定できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を保ち、希望を取り入れた支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節や好みに合わせた身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。利用者の馴染みの理容・美容院等を利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際、利用者の好み・意見を聞きながら作成している。買物・準備・片付けなども職員と一緒にしている。	利用者の希望を取り入れた献立にしている。食材は、畑で収穫した野菜をふんだんに活用している。だまご作りへ利用者が参加したり、収穫した菊や干し柿を利用した献立が確認できた。買い物、片づけ等も利用者と職員と一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が適切に確保されているか把握し、利用者の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、自立の利用者には見守り、援助の必要な利用者は職員と一緒にしている。義歯の洗浄は専用の薬品を使って、週三回行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、失敗や不安なく排泄できるよう、プライドやプライバシーに配慮し自立にむけた支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともトイレで排泄出来るよう支援している。日中、リハビリパンツ使用から布パンツを使用する等、自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、予防のために食事の工夫や運動、水分補給に努めている。解消されない場合は、医師へ相談し薬の服用を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、不安や羞恥心に配慮し、入浴を楽しめるよう支援している。	日曜日を除き、一日置きに実施している。入浴を好まない利用者には、タイミングを計る等、さりげない対応を行っている。入浴剤を毎日入れ替えて利用者が楽しめるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるよう日中の活動を促したり、休息しても離床時間を工夫している。薬剤の使用については、医師の指示の下行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的や副作用、用法・用量について理解している。医療関係者を活用し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の思いや希望を尊重し、出来る範囲での役割を持ってもらい、利用者の生活歴を活かした支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出を楽しみにしている利用者は多く、ドライブや近隣の散歩は日常的に行っている。希望があれば自宅や行きつけの店、馴染みの場所に出かけたりして支援している。	近隣の散歩やドライブ、理美容院、買い物等、希望に沿った外出を支援している。運動会、カラオケ、タンゴ会等、同法人事業所の合同行事に家族や地域住民と参加しており、楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の了解を得て、負担にならない程度のお金を財布に入れ所持している。また管理できない利用者には、買物時お金を渡して支払ってもらおうなどの支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入ったり、本人が電話をかけたいとの希望があれば支援している。手紙や葉書は時々来るが、本人から出すことはない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快や混乱をまねかないように、柔らかく家庭的な雰囲気のある生活共有空間になっている。廊下やホールには利用者の作品を飾ったり行事の写真を貼ったりして居心地良く過せるように工夫している。今夏はホールにクーラーが付き熱中症予防に役立っている。	引き戸や柱など、全体が茶系の濃い色彩を使っており、落ち着ける雰囲気である。ホールには、冷暖房機が新設され、ゆっくり休めるようにソファが多く設置されている。ホールから続くウッドデッキでは外気に触れることができ、畑や屋外の景色から季節の移り替わりを感じることが出来る。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	廊下の一角には椅子とテーブルがあり、ホールにはソファがあって利用者同士または職員と一緒に会話したりお茶を飲んだり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの食器・衣類・身の回りの物を持ってきていただき、本人が居心地良く過せるよう工夫している。	各居室には、木製のベッドや収納棚が設置されている。利用者が、テレビや使い慣れた家具等を持ち込み、落ち着いた部屋になっている事が確認できた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所等が分からなくなる利用者のために、場所の表示をし、混乱や失敗のないように声がけや見守りしながら、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		